

様式(細則 5-2)

平成30年6月8日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため（視察・研修）を（実施・受講）したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成30年5月26日（土）10時～20時
- 2、研修内容 第37回全国地名研究者 出雲大会
- 3、研 修 先 島根県民会館ほか
- 4、調査経費 4,980円（JR利用）
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



「第37回全国地名研究者 出雲大会」出席のため

平成30年6月8日

1 日 時 平成30年5月26日（土）10時～20時

2 場 所 島根県民会館ほか

3 概 要

- ① この大会は今回で37回目を数え、開催テーマを「出雲 神々をめぐる地名と風土」と題して、「神々の国」「ご縁の国」といわれる島根を舞台として、日本で唯一の完本「出雲風土記」が残り、「古事記」上巻で3分の1を占める「出雲神話」の地、島根県で開催されたもので、全国から約500人余りが参加した。
- ② 大会では、「出雲国風土記に見る風土と地名」関 和彦 日本地名研究所所長、「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）と地名をめぐる考察」小泉 凡 小泉八雲記念館館長、「方言・出雲弁の風土と地名」藤岡大拙 NPO出雲学研究所理事長、「たたら製鉄の景観と地名」林 正久 島根大学名由生教授、「島根半島・宍道湖中海ジオパークからみた風土」野村律夫 島根大学名誉教授、「江戸初期から続く城下町松江の地名」島根地理学会顧問 大矢幸雄、「出雲神話世界と地名と大地」千家和比古 出雲大社権宮司などによる講演や研究発表が行われた。
- ③ 研究発表の合間を利用して、有福神楽保持者会による石見神楽「大蛇」が上演され、8頭立ての見ごたえのある神楽を演じ、全国から訪れた参加者から盛んな喝さいを浴び、見る人を魅了していた。

4 所 見

- ① 全国で5つが残る「風土記」のうちの一つが出雲風土記であり、この風土記が編纂されたのが733年であり、平成45年（2033年）には編纂1300年を迎えることから、記念行事なども予想され、島根県西部としてどのような連携が図れるのか、注目しておく必要がある。
- ② 古事記と並ぶ古代の書物「日本書紀」編纂は720年であり、平成33年に編纂1300年を迎え、古事記編纂1300年の例にならえば、石見神楽が前面に押し出されることから、何らかの神楽関連事業の展開が考えられる。
- ③ 当市のたたら製鉄とかんな流し遺構などは、奥出雲地方と双璧をなすものであり、井野・田橋横山・波佐など中山間地域で営まれてきた歴史があり、これらの遺構などの整理や資料館での展示や啓発が必要である。
- ④ 有福神楽保持者会による石見神楽「大蛇」が演ぜられ、観光客から盛んな喝さいを浴びていたが、石見神楽の見せ方や全国への情報発信、観光資源としてさらなる磨きをかける必要がある。
- ⑤ 市では平成31年に浜田開府400年を控え、改めて歴史資源の発掘とその整理をする必要がある、城跡の整備とともに城下の浜田八町の遺構、武家屋敷、町人町、往還道などの整理と標示などの情報発信と啓発を進める必要がある。
- ⑥ 全国でジオパーク（地質公園）構想が進められており、当市にある石見畳ヶ浦、黄長石玄武岩などの整備が必要である。